

2015.3.22. @放送芸術学院専門学校

担当： 鎌田 潤

(元大阪府立北摂つばさ高等学校)

j-kam@fa2.so-net.ne.jp

第1部 いつもの練習

いつも、活動の最初にみんなで、または個人でも、必ずやるいつもの練習。皆さんの部ではどんな練習をしていますか？ なぜその練習をするのか、練習の目的を理解していますか？ 実際にやっていることは、その目的にかなっていますか？ ちょっと確かめてみましょう。

第2部 音声チェック

(1) 母音

日本語の母音は5つ？ ---- 意味の違いを生む母音が5種類

アップル apple、カット cut、ワード word みんな「ア」の音？

日本語の“正しい”「あ」の音は？

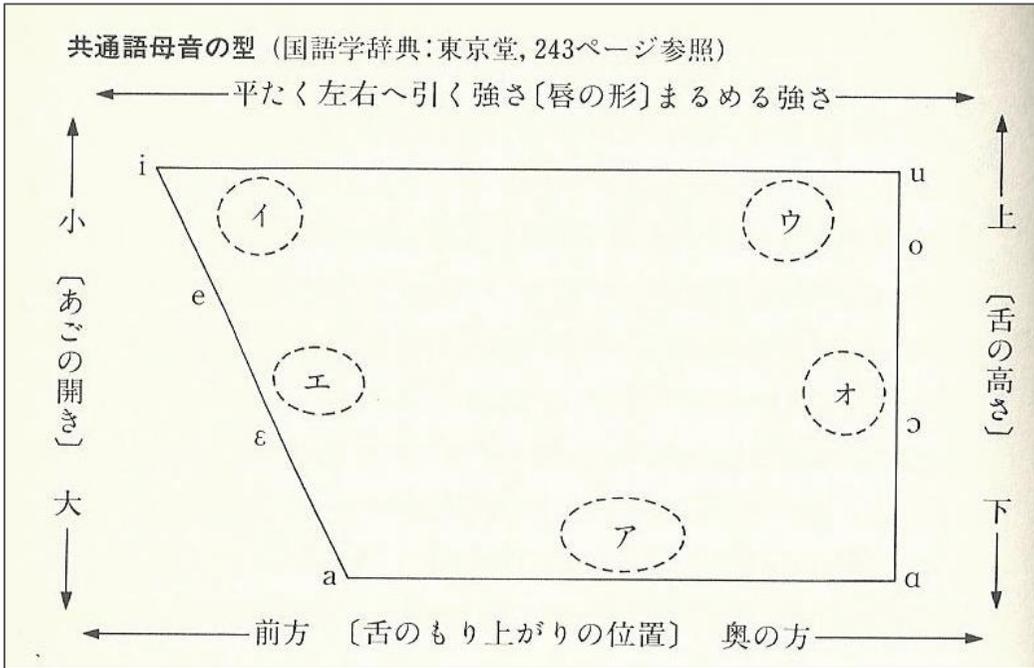
日本語は、母音を美しく響かせることが重要。

紛らわしい母音

아 と 어、 어 と 오、 우 と 으、 /i/と /I/ (feel と fill)

練習

青い家 相生 青嵐 息を切らして駅へ駆けつけた 老いては負うた子に教えられ



(新・校内放送ハンドブック 日本放送教育協会 平成5年 P.110)

(2) 子音

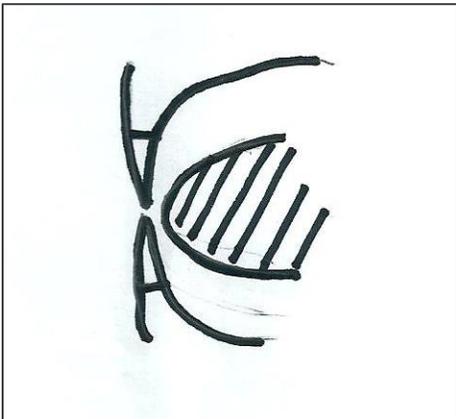
日本語は「ん」を例外として、すべて 子音+母音 の構造を持っている。従って、母音が不安定だと子音部分の発音ができても全体として不確かな音になる。

①サ行 ... サスセン /s/

θに聞こえる人は、舌先が上がっていてしかも歯に触っていることが多い。

* /θ/ は、舌先が上の歯の先端に触れる音。下の歯は無関係。舌先を噛んではいけない。

スは「う」の口の構えが重要。

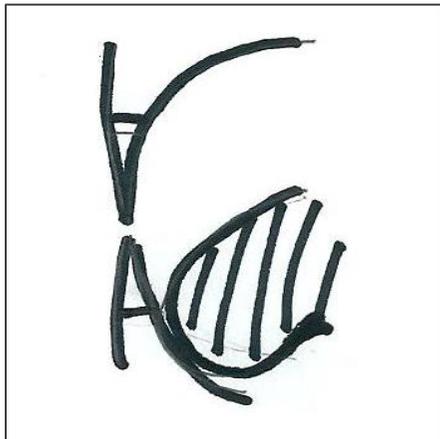


歯はほぼ閉じている。舌はほぼ中央位置でどこにも触らない。

②サ行 --- シ /ʃ/

歯を閉じる（母音部分で開く）。舌尖の位置は、下の歯より下。

横に口を引く「い」の口の構えができていないと、/ʃ/の音になりにくい。



舌尖を下の歯の根もとに当てるようにすると/ʃ/の音が出やすい。

③タテト



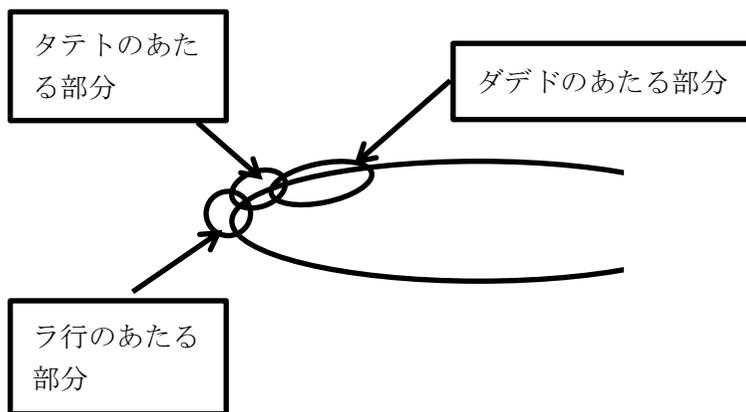
舌の先（先端 tip よりやや上の部分）を上
の歯の根もと、上あごとの境に当てる。

④チ

舌の位置をシと同じく、下の歯の根もとに当てると出しやすい。

⑤ツ

舌の位置はスと同じだが、舌尖と上下の歯の先端が当たることで息の溜めを作る。



練習

泥だらけのラクダのからだ

⑤ん

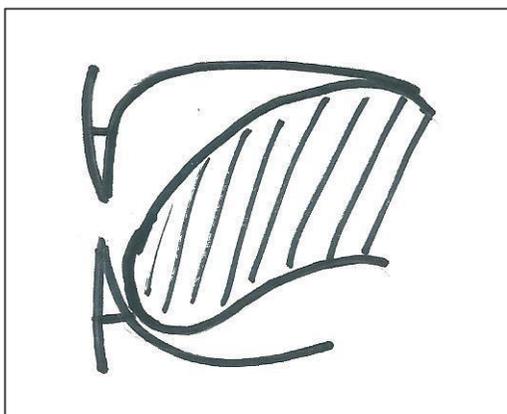
日本語では唯一の純粹子音。 ハングルで書けば、안 (アン) のンではなく 앙 (アン) のン。鼻を鳴らす感じ (鼻音)。舌先はどこにも触れない、または、下の歯のさらに下 (歯茎の裏)。

* 「ん」の文字で書いてもあ**ん**ぱんの「あん」など/m/の音になる場合もある。

あ**ん**ぱ**ん**まんでは 「あmぱmまん」になる。

⑥鼻濁音

鼻裏に響く音です。一部の地方では発音する習慣がないので難しいとされている。よく“前に「ん」の音を付けて「がぎぐげご」と言ってみるとよい”と言われるが、篠原さなえ『「魅せる声」の作り方』は、「ん」の音を付けると鼻に息が抜けすぎるので「にゃがにぎにゅぐにえげによご」と言うといいと紹介している。ルールを覚えることも重要。



鼻濁音を出しにくい人は、左図のように舌先を下歯茎の根もとに押し当て、舌の奥を上あごにつけるようにして、息を鼻に通し、鼻を鳴らすようにしてみるといいかもしれない。このままの音は「ん」になるので、舌と上あごが離れる瞬間に「が」と言ってみる。

⑦母音の無声化

ルールで覚えようとする、と、案外難しい。たくさん練習することで身につけたい。アクセントが助けてくれるような語も少なくない。

いろいろな練習問題

五十音	北原白秋	(表記は 田代晁二による)			
あめんぼ	あかいな	アイウエオ	浮き藻に	小えびも	およいでる
かきのき	くりのき	カキクケコ	きつつき	こつこつ	枯れけやき
ささげに	すをかけ	サシスセソ	その魚	浅瀬で	刺しました
立ちましょ	らっぱで	タチツテト	トテトテ	タッタと	飛びたった
なめくじ	のろのろ	ナニヌネノ	納戸に	ぬめって	なに ねばる
はとぼっぼ	ほろほろ	ハヒフヘホ	ひなたの	お部屋にや	笛を 吹く
まいまい	ねじまき	マミムメモ	梅の実	おちても	見も しまい
焼きぐり	ゆでぐり	ヤユエヨ	山田に	灯のつく	宵の いえ
雷鳥は	寒かる	ラリルレロ	れんげが	咲いたら	るりの 鳥
わいわい	わっしょい	わわうエヲ	植木屋	井戸替え	お祭りだ

あいうえおの	うた	まど	みちお		
あかい え	あおい え	あいうえお		はるの ひ	はなふる はひふへほ
かきの き	かくから	かきくけこ		まめの み	まめの め まみむめも
ささの は	ささやく	さしすせそ		やみよの	やまゆり やいゆえよ
たたみを	たたいて	たちつてと		らんらん	らくちん らりるれろ
ない もの	なになの	なにぬねの		わいわい	わまわし わいうえを

がぎぐげごの	うた	まど	みちお		
がぎぐげ	ごぎぐげ	がまがえる		ばびぶべ	ぼうぼう のびた かみ
がごがご	げごげご	がぎぐげご		ばさばさ	ぼさぼさ ばびぶべぼ
ざじずぜ	ぞろぞろ	ざりがにが			
ざりざり	ずるずる	ざじずぜぞ		ぱびぶべ	ぽっぼう はとぼっぼ
				ぱっぼろ	ぺっぼろ ぱびぶべぼ

だちづで	どどんこ	おおだいこ
だんどこ	でんどこ	だちづでど

あひるのあくび					
あひるの	あくびは	あいうえお		はちさん	はらっぱ はひふへほ
かえるが	かけっこ	かきくけこ		まりつき	まけるな まみむめも
さるくん	さかだち	さしすせそ		やぎさん	やま いく やいゆえよ
たぬきが	たこあげ	たちつてと		らくだで	らくらく らりるれろ
なまずが	なかよく	なにぬねの		わにさん	わなげだ わいうえを ん

(東京書籍 新しい国語 1上)

<鼻濁音の練習>

十二月 田代晃二

しょう**が**つ かど**ご**と かど松 日の丸

しん年 ことほ**ぎ** とそ つ**ぐ** おや子 羽**ご**板 たこ**あ**げ す**ご**六あそび
に**が**つ 梅**が**香 う**ぐ**いす 鳴いて

に**ぎ**わう 初午 そよ**ぐ** たて**が**み ま**ご**(馬子)の よめ**ご**の つ**げ**ぐし ひかる
はるは さん**が**つ やな**ぎ**が 芽**ぐ**み お**が**わが な**が**れ

めだ**か**が およ**ぐ** う**ご**の かげろう 日**が**さ**が** ゆれる
し**が**つ にゆう**が**く 一ねんせい

てを **あ**げ ハイハイ 国**ご**で**す** つ**ぎ**は 体操 しろ**ぐ**み あつまれ
ご**が**つ たん**ご** わかばの かげに まわる 矢**ぐ**るま

ま**ご**いに ひ**ご**い な**ぎ**なた**す**がたの むしやに**ん**ぎよう
ろく**が**つ な**が**あめ うの花 か**ぐ**わし

た**ご**とに す**げ**がさ なく ほとと**ぎ**す 水べの 草むら ほたる**が**り
しち**が**つ たなばた ざぼんの 花**か**げ

ま**ご** 抱き あお**ぐ** 天の**が**わ けん**ぎ**ゅう しゆくじよの もの**が**たり
はち**が**つ さん**ご**の うみの こどもたち

水かけ**ご**っこ も**ぐ**りっこ 岩**か**げ およ**ぐ** 熱たい**ぎ**よ
く**が**つ 十**ご**や す**ず**きと だん**ご**

おと**ぎ**ばなしの か**ぐ**やひめ お**が**む つき**か**げ うた**ご**ころ
じゅう**が**つ 秋ばれ 運どう会

まりな**げ** か**ご**入れ 赤**く**み それゆけ つ**ぎ**つ**ぎ** な**げ**こみ み**ご**と 一等
じゅういち**が**つは しち**ご**さん

鳥居 く**ぐ**れば き**ぎ**く しら**ぎ**く さい銭 **あ**げて 氏神(うじ**が**み) まいり
じゅうに**が**つ し**ご**とおさめの おおみそか

かど**ぐ**ち きよめ しめなわ か**か**げ ね**ぎ**らいの そば こう白 歌**が**つ戦

(太字ポップ体：鼻濁音、イタリック体：母音の無声化が起こるところ)

☞ 放送部活動に備えたい図書 ☞

NHK アクセント辞典 必携 個人で持つならスマートフォン用のアプリもある
「魅せる声」のつくり方 篠原さなえ 講談社ブルーバックス

発音や発声のチェックポイント・練習法

美しい日本語の発音 田代晃二 創元社(1975年) 練習問題満載

コミュニケーションのためのことば学 ミネルヴァ書房(1993年)

<無声化母音の練習>

四季 (しき)

田代晃二

花の寺

はる ぶかく やまぶところを 行く
ぶき ひととおちて
この 道を行きし ひと あり
歩みつかれて 峰ちかく 花の てら
咲きこぼれ いけに 散りしく はなは
うすくれないに きしに におう
鐘の音 おもく まつかぜと きそい
読経のこえ ひくく たにを つたう

あきかぜ

風が ぶく あきかぜが ぶく
くち葉を おどらせ
まつかさを とばし
すすきの はらを したに ぶきぬけ
やますその きしべ つき見草を 震わせ
まちかたの や根を こして
風が ぶく あきかぜが ぶく

夏きたる

しち月の うみ ぶかく
湧く くも しろく
うみが びかる そらが びかる
昼の つき かすかに びかる
ひき潮に 逆らい 網ひく りょうし達
赤銅の びたいに ちから みちて
あせが びかる あみが 光る 魚 びかる
しち月の うみ まぶしく びかる

*光る：びかる

冬のあした

ゆまけむり たてて すすむ きしゃ
立ち木 ぶかぶかと ゆきに うもれ
き笛 わびしく つつみに 消える
きた風 いよいよ ぶきつのもり
軒したの くし柿 さわぐ
よつ辻に 立ち働く ゆまかきの ひと人
いき しろく あしたの びかりを きる

丸ゴシック・イタリック体：母音の無声化が起こるところ

無声化のルール（新・校内放送ハンドブック 日本放送教育協会 平成5年 P.116）

- 無声子音/k/, /s/, /t/, /f/, /h/, /p/に挟まれた母音/i/, /u/は無声化する。
- 無声子音/k/, /s/, /t/, /f/, /h/, /p/に続く/i/, /u/が語尾に来て、しかもその拍にアクセントがない場合には無声化する。
- 母音/a/, /o/も無声子音に続きしかもその拍にアクセントがない場合に無声化する場合がある。特に/k/, /h/にその傾向がある。

例：心 kokoro 、 矛先 hokosaki

放送部活動のお手伝いします。

下記のアドレスに、電子メールをください。

j-kam@fa2.so-net.ne.jp

件名(Subject)には、〇〇高校放送部 などと、学校名を入れてください（迷惑メール対策です）。